



発行 特定非営利活動法人 児童虐待防止協会

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4-15 大阪府社会福祉会館3F tel 06-6762-4858 fax 06-6762-4884 ホームページ <http://www.apca.jp>

日本子ども虐待防止学会 第22学術集会

—報告— おおさか大会を終えて



平成28年11月25日～26日
大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

◆JaSPCANとともに歩んだ四半世紀

児童虐待防止協会 副理事長 中塚 恒子

1990年当初、児童虐待の対応に多職種の連携が欠かせないということにいち早く気づいたのは、当協会の小林美智子理事を中心とする医療・保険・福祉・教育・司法・報道などの専門家の方々でした。この繋がりと学びがその後のわが国における児童虐待の施策や制度構築にも大きな影響を与えました。大阪は、児童虐待防止協会が日本で最初の児童虐待防止のための民間団体として先の関係者によって設立され、最初の日本子どもの虐待防止学会(JaSPCAN)の大会が開催された土地でもあります。そして再びこの大阪で20年ぶりに大会が開かれま

◆多分野の強固な繋がりを構築 —参加者2,600余の盛況—

おおさか大会 広報・渉外委員会 浜田 真樹

「日本子ども虐待防止学会第22回学術集会おおさか大会」は、「新たな支援の創造」をテーマに掲げ、去る11月25日(金)・26日(土)に、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)にて開催されました。全国から多数の方にご参加いただき、盛況のうちに大会を終えることができました。

大会の参加者数は、例年を大きく上回り、2680名に上りました。大きな会場であるとはいえ、最大収容人数に迫る来場者数となったことから、参加いただいた皆様にも何かとご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。

当日は、メインホールの大会全体シンポジウム(「児童福祉法改正をめぐって」)を皮切りに、大会特別講演(「なぜ、人間の赤ちゃんは泣くのか」)、大会国際プログラム(「ラター氏から学ぶ 逆境状況の子どもの理解と支援」)などの大型企画が次々と開催されました。また、各会場では、多分野に亘る大会企画シンポジウム(6件)や教育講演(5件)が行われたほか、国際シンポジウム(「学校における子ども虐待問題への新たな支援に向けて」)、スポンサーセッション(「子どもが家庭で育つ社会に向けて」)も開催されました。これらに加え、68件の応募シンポジウム、157件の一般演題(口頭発表86件、ポスター発表71件)が開催され、いくつもの会場で満席となり立ち見もお断りせざるを得ないなど、運営側としては嬉し

した。

1回目の大会は、まさに先の関係者や会の主だったの方々による手作りで、事務方の中心的役割を担ったと聞きます。また、子どもと親を共に支援するという揺るぎない信念をもってその後の協会の活動に力を尽くして下さい、亡くなられた方々のことがあらためて思い出されます。

今大会の運営は、以前から児童相談所の虐待対応をサポートしながら、その経験を共有してこられた弁護士さん達を中心となって行われました。弁護士さん達のリーダーシップの下で機能的で細やかな運営体制が築かれ、内容についても大会企画やプログラム他、各セッションに関する丁寧な議論が尽くされたと思います。当協会も大会長を務めた津崎理事長をはじめ、理事やスタッフも及ばずながら、各セッションのメンバーとなってその一翼を担いました。協会の運営を支えてもらっている関西テレビも映像コーナーを設けて下さいました。次頁以降に詳しく掲載されているとおり、当協会も、2つのシンポジウムを主催しました。今回の大会プログラムの内容がより充実したものとなった背景には、子どもの最善の利益を確保し、親子を支援して虐待の連鎖を断ち切ろうとする、職種や分野の違いを超えた各関係者の活動の積み重ねがあったのではないかと考えられます。今、様々な専門職や関係者の皆さんが「新たな支援の創造」という大会テーマ通りに、具体的な支援や枠組みを作りださねばと模索しています。児童虐待防止協会にとって、この大会はJaSPCANとともに歩んできた四半世紀の集大成であり、今後とも官民を超えた出会いと学びの場を作り出す起点になれば、と願っています。

今も苦しい養育環境にある子どもや親が、人と人との繋がりの中で自尊感情を育み、生きていて良かったと思える地域社会を私達は広げていきたいと思っています。

い悲鳴となりました。内容についても、幾人もの参加者の方からお褒めの言葉をいただき、その充実ぶりを改めて実感することとなりました。

おおさか大会の実行委員会には、大阪で児童虐待問題に取り組む人たちに多数参画いただきました。1年以上に亘る準備作業には苦労もありましたが、多くの方々との間で強固な繋がりを作ることができたことは、大きな成果であったと思います。これを契機に、より一層、連携を深化させていきたいところです。大会の成果等については、夏ごろにはJaSPCANの機関紙「子ども虐待とネグレクト」に特集としてまとめられる運びです。

最後になりましたが、大会の開催にあたっては、多くの法人・個人の方から寄附・助成、意見広告等をいただきました。加えて、大会のプレ企画や前年のいしがた大会会場でも、多くの皆様にカンパへのご協力をいただきました。大会を無事に終えることができたのは、ひとえに、このような皆様からのご支援あってこそそのものと大変感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。

次回学術集会は、今年12月千葉市(幕張メッセ)にて開催されます。今度は一般参加者に戻って、また皆様とお目にかかることを楽しみにしております。

	報告 JaSPCANおおさか大会	1		report第159回 Child Abuse研究会/世界の子どもたち	6
目	“おおさか大会”参加企画	2~3		report西澤哲の特別セミナー	7
次	児童虐待防止推進月間への取り組み	4		連載 子ども虐待と法律	8
	学校現場との意見交流会 / ホームページがリニューアル!!	5		連載 虐待とその周辺領域	9